

---

# 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

## センターだより第174号(通巻第241号)

---

2019年6月28日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen-ml@yamanashi.ac.jp  
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※このセンターだよりで紹介した研究会, 研修, 教育フォーラムに関するお知らせは, 改変しない限り, 自由に複写, 配布していただいて結構です。

### ■ 着任の御挨拶 (PART2)

#### 教育実践研究部門(兼 教職大学院・教授) 饗場 宏

昨年度末の人事交流により, 県教育委員会義務教育課から, 附属教育実践総合センター協力教員としてまいりました饗場(あいば)宏と申します。実務家教員の一人として教育現場で培ってきた経験を生かし, お役に立てるように努力してまいります。どうぞ, 宜しく願いいたします。

#### 教育実践研究部門(兼 教職大学院・准教授) 田中 一弘

4月より附属教育実践総合センター協力教員としてお世話になることになりました田中一弘と申します。これまで勤務していた小・中学校とは異なる大学の教育環境に不安を感じながらも, 与えられた役割をしっかりと果たしていこうと考えているところです。

子供にとっても教師にとってもより魅力ある学校にするために, 教師の高い専門性や実践的な力量が強くと求められており, 当センターの役割が大変重要であることが, 少しずつ分かるようになってきました。様々な活動をとおして, 教師を目指す学生の皆さんや現職の先生方とともに, 教育のあり方や教師としての生き方についての学びを深めていきたいと考えておりますので, 皆様方の御指導をよろしく願います。

#### 教育実践研究部門(兼 教職大学院 客員教授) 石丸 洋一

4月より実践センターにお世話になることになりました石丸洋一です。平成30年度末をもって南アルプス市立八田中学校校長を定年退職しました。

これまでの学校現場や教育行政勤務での様々な経験を基に, 微力ながらも教職大学院及び教員養成機能の業務に貢献できればと考えております。どうぞよろしく願います。

#### 教育実践研究部門(兼 教職大学院 客員教授) 奥水 清司

本年度, 4月よりお世話になっております奥水清司と申します。平成30年度末, 北杜市立甲陵中学校を定年退職しました。これまでの学校現場等での経験を活かし, 少しでもお役に立つことができると考えております。どうかよろしく願います。

#### 教育実践研究部門(兼 教職大学院 客員教授) 望月 栄一

4月よりお世話になっております望月栄一です。笛吹市立富士見小学校での勤務を最後に, 平成30年度末をもって定年退職しました。学校現場で経験したことや得た知識を学生の皆さんに

お伝えする中で、少しでもお役に立てればと考えています。微力ではありますが、どうぞよろしく願いいたします。

#### **教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授） 奥田 正治**

4月よりお世話になっている奥田です。

最近の首を傾げたくなる様なニュースを見聞きするたびに教育の重要性を再認識する日々です。夢と志をもつ教師の育成に自分自身学び続ける覚悟です。よろしく願いいたします。

#### **教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授） 窪田 新治**

4月より教育実践総合センターにお世話になっています窪田新治です。大学という新しい環境に戸惑いながらも、今、期待ややりがいを感じているところです。37年間の中学校勤務や義務教育課指導主事、管理主事の経験を生かし、微力ながら教員養成に貢献できればと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

#### **教育実践研究部門（兼 教職大学院 客員教授） 小林 玲子**

この度、教育実践総合センターに客員教授として、お世話になることになりました小林玲子です。平成30年度末をもって、市川三郷町立市川東小学校を退職しました。これまでの経験をもとに、教職大学院と学校現場の連携に貢献できれば幸いです。よろしく願いいたします。

## **■「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会（峡東地区）」が開催されました。**

本研修会は、昨年度、本学教育学部と附属教育実践総合センターが連携して実施した「若手教員学習会」の後継事業として、より内容を充実し対象を広げ、県内4つの教育事務所管内において実施しています。本年度は、山梨県総合教育センターの共催研修として、「OPPシートによる学習・指導と評価の一体化」をサブテーマとし、OPPA（一枚ポートフォリオ評価）論の専門家の先生方を講師に招いて行っています。

第1回目の研修会は、6月13日（木）に峡東地区で開催されました。若手からベテランまで地区を中心とした教員33名が参加し、充実した研修会を行うことができました。その内容を簡単にご紹介します。

まず初めに、昨年度まで山梨大学の理事・副学長であった堀哲夫先生から、OPPA論の概要説明がありました。堀先生は、OPPAの開発者であり、全国的に大きな影響力をもつ先生ですが、子どもの変容に対する意識を知るためにOPPシートが重要な役割を果たす事などを、わかりやすく説明していただきました。

続いて、OPPAの実践者であり、理科の教科書の編集委員をされ、多くのテレビ番組にも出演している、法政大学理工学部講師の辻本昭彦先生から、実践事例の紹介や、参加者相互の演習による実習指導などがあり、さらに研修を深めることができました。

最後に、参加者一人一人が、本日の研修会のOPPシートを作成し、自らの変容を確認することができました。

これからの教育評価の柱ともなるべきOPPAについて、わかりやすくまた楽しく学ぶことができた研修会でした。

今後は6月25日（火）に峡南地区（身延地区公民会下山分館）、8月8日（木）に富士・東部地区（都留市まちづくり交流センター）、8月9日（金）に中北地区（北巨摩合同庁舎）において、開催を予定しております。

## ■ 「令和元年度期間採用者等研修会」の報告

令和元年度期間採用者等研修会を、5月25日（土）に実施しました。当日は、小・中・高校の期間採用等の臨時採用教員の先生方や学生合わせて86名が参加しました。

今年度より内容を見直し、参加しやすいように午前中開催としました。内容は3つの研修を用意しました。一つ目は、教科に関する研修として、【研修1】「児童・生徒をひきつける授業の工夫」をテーマに小・中・高校の3部会に分かれて実施しました。二つ目は、学級経営に関する研修として【研修2】「児童・生徒理解と学級・ホームルームづくりのヒント」をテーマに、研修1と同様に3部会に分かれて実施しました。三つ目は、特別支援教育に関する研修として、【研修3】

「通常学級における特別な支援を必要とする児童・生徒の理解と支援」をテーマに、全体会として1会場で実施しました。

この研修には、県内で御活躍いただいている現場の教頭先生方から、授業づくりのヒントやその授業にかける思い、児童生徒との関係づくりや学級づくり、生徒へのかかわり方のポイントなど。また、特別に支援を必要とする児童生徒の状況や対応などについて、具体的にお話しいただきました。

参加者からは、以下のような、肯定的な評価をたくさんいただきました。

「今後の教員生活に活用していきたいと思った。」

「具体的な内容で勉強になりました。実践させていただきま  
す。ありがとうございました。」

「明日からの指導に役立たせていただきます。」

「こういう研修の機会を設けてくださるのはありがたい。

「どの講義も本当にためになる内容で、貴重な学習の場  
になりました。」

「大変ためになるお話をありがとうございました。月曜日  
からも頑張ろうと思いました。」

「とても勉強になりました。今後、活かしたい実践がたく  
さんでした。」

「多くのことを学ぶことができました。また、参加したい  
と思える学びができました。本当にありがとうございました。」

「“教科指導の力をつけたい”という強い希望があります。  
新採用教員にはそれなりに指導の場があるかもしれませんが、期採となるとそういった機会に恵まれず、自力でもがくよりほかにないのが現状です。実践的にうまい授業ができる力をつけるヒントが欲しいです。」

今回の研修の内容を活かして、現場で笑顔いっぱいの教育活動ができることを期待しています。

受講者のうち81名が答えてくださったアンケート結果の一部を掲載します。



全体会 田中附属教育実践総合センター長



研修1：小学校部会での様子



研修2：高校部会での様子



研修3：特別支援教育部会での様子

# アンケート（期間採用者等研修を終えて）

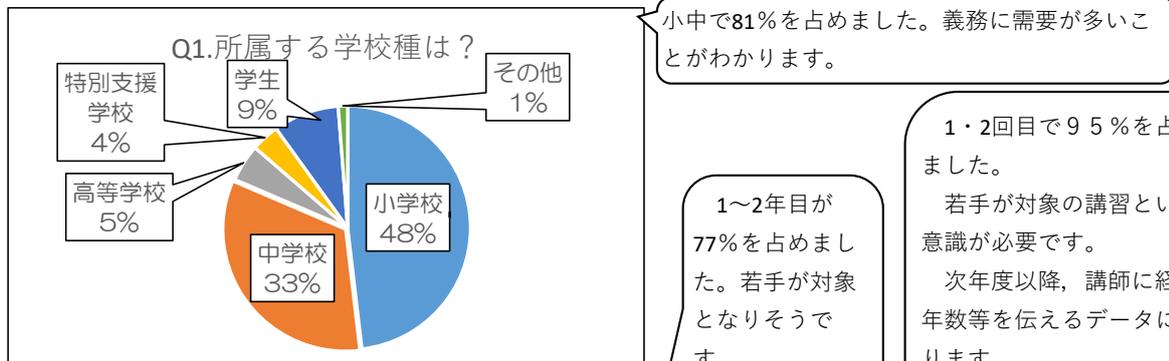
2019.5.25

◆アンケートに御協力ください。下記の該当する欄に○印をつけてください。

81名/86名

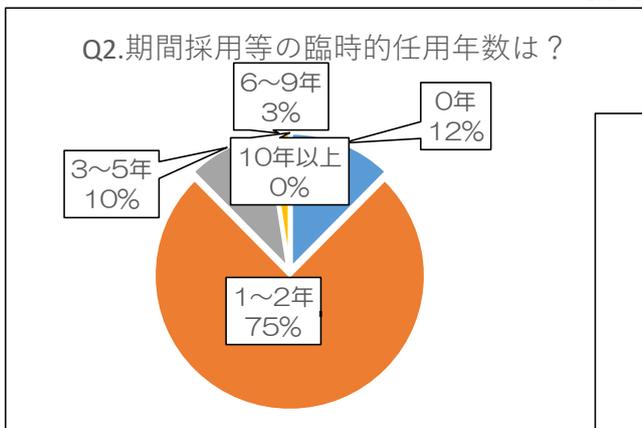
## Q1. 所属する学校種は？

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	学生	その他
39	27	4	3	7	1



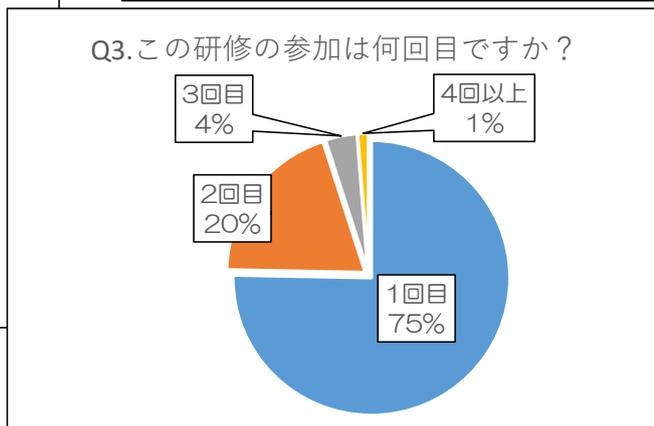
## Q2. 期間採用等の臨時的任用年数は？

0年	1～2年	3～5年	6～9年	10年以上
10	61	8	2	0



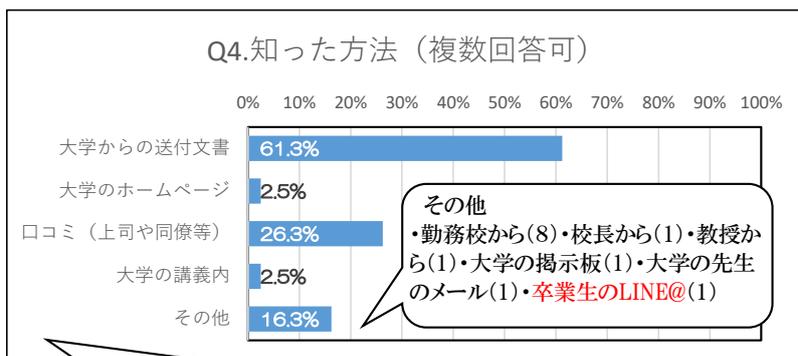
## Q3. この研修の参加は何回目ですか？

1回目	2回目	3回目	4回以上
61	16	3	1



## Q4. 知った方法（複数回答可）

大学からの送付文書	49
大学のホームページ	2
口コミ（上司や同僚等）	21
大学の講義内	2
その他	13



大学からの文書送付は有効です。次年度も県教委の協力をいただく中で、全学校に送付する必要がある。学校へのメールも効果あり

Q5.受けた研修は？（各研修について御回答ください）

(研修1)			(研修2)			(研修3)
小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校	特別支援教育
41	34	6	41	34	6	70

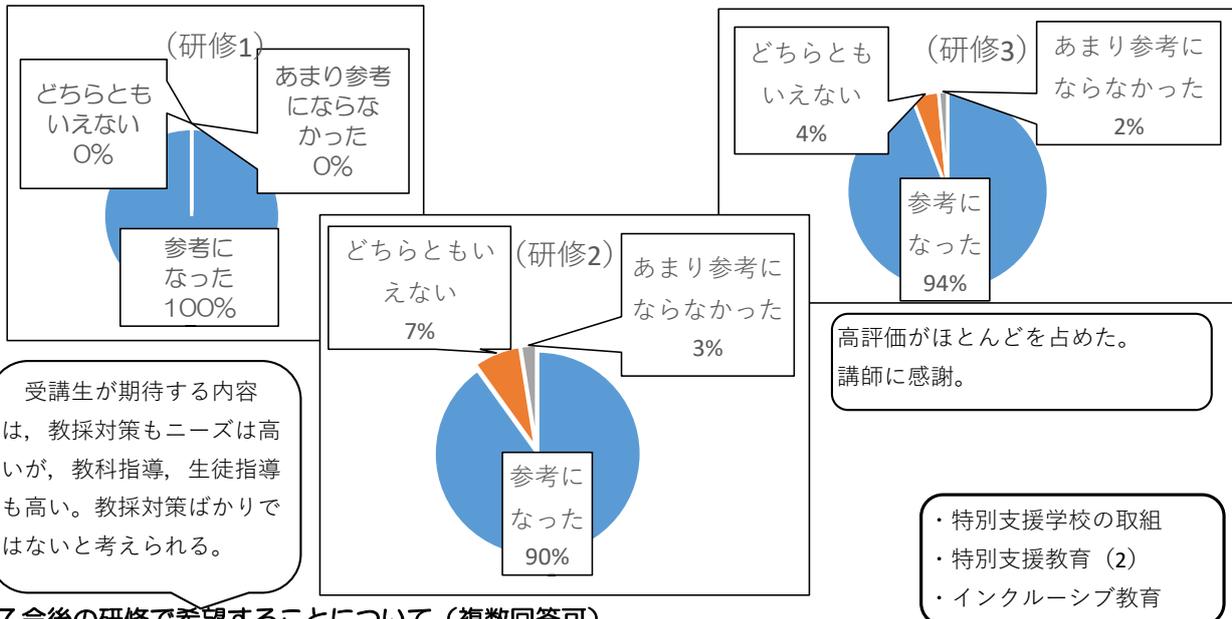
Q6.各研修の内容について

(研修1) 教科指導

(研修2) 学級経営

(研修3) 特別支援教育

参考になった	どちらとも いえない	あまり参考 にならな かった	参考になった	どちらとも いえない	あまり参考 にならな かった	参考になった	どちらとも いえない	あまり参考 にならな かった
81	0	0	73	6	2	66	3	1



Q7.今後の研修で希望することについて（複数回答可）

教科指導	学級経営	公務員の服務	生徒指導	教育相談	採用試験対策	グループ討議	その他
47	36	7	48	11	46	12	4

Q8.本学（山梨大学）の出身（在籍）ですか？

はい	いいえ
20	61

